

森を尊び、その恵みに感謝する。

人は森を尊び、大地に感謝する。
日の昇る山で獅子が舞い、
豊作に神楽を奉る。
守り、伝える伝統の祭り。



岩

岩代町には先人から伝わる伝統芸能や祭りも多く、昔と変わらぬ姿で受け継がれています。日々の暮らしの喜びや願いから生まれたこれらの祭りは、町の貴重な財産であり、これからも大切に守っていかねばなりません。

400年以上も昔に建立されたと言われる下長折の諏訪神社には、古くから「三匹獅子舞」が受け継がれています。勇壮な獅子に乗せた獅子舞は、戌辰の役で官軍の兵をもたじろがせたという逸話が残っています。

正月3日の夜に広瀬熊野神社の氏子たちによって行われる「御田植祭」は、今でも女人禁制、神事一切他言無用という決まりが守られているめずらしいお祭りです。豊年万作を祈るこの祭りは民俗学的にも貴重で、「三匹獅子舞」とともに県の重要無形民俗文化財に指定されています。

毎年5月3日から5日まで3日間にわたって行われる「万人子守地蔵尊例大祭」は、子供たちの健やかな成長を願うお祭りです。この岩代の地には、今でも

子供の守り本尊の分身である「木彫りの子地蔵」を借り受ける風習が残っているのです。例大祭には、美しく着飾った少女たちが華麗な「稚児舞」を奉納します。

塩松神社に200年以上も前から伝わる「小浜の太鼓台祭り」は、紋付袴姿の氏子たちが神輿にお供して町内を練り歩くことから「紋付祭」とも呼ばれます。威勢の良い囃子にのせて太鼓台の引きまわしが行われ、夜遅くまで通りは賑わいます。



万人子守地蔵尊例大祭

子地蔵を里帰りさせ、新たに祈禱を受けるために多くの参詣者が訪れる中、美しく着飾った少女たちが愛らしい「稚児舞」を奉納します。